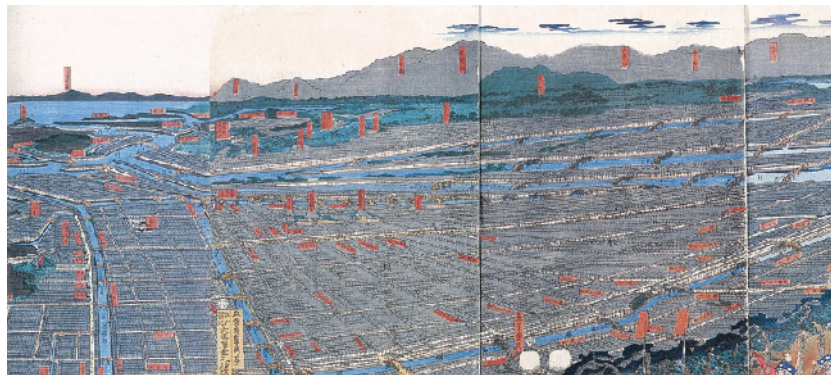


## 水とともに繁栄した水都大阪（歴史的背景）

かつて大阪は、堀川や太閤下水等の水路が東西南北に張り巡らされた「水の都」であり、「なにわ八百八橋」といわれる都市景観があった。30万人を超える人口を擁した大坂三郷は、水運による郊外農村との糞尿リサイクルシステムが整った環境都市であったが、近代化とともに水路が埋め立てられ、水と関わりが深い生活文化は失われつつある。

|       |                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 古代    | 太古、大阪の都心部の大半は海であった。上町台地の北端に東アジア交流の拠点として難波宮がおかれ、都市大阪の起源となった。    |
| 中世・近世 | 大阪城築城後、市街地の開発とともに網の目のように入り組んだ堀川や水路が開削され、水と密着した水都の生活文化が華開いた。    |
| 近代    | 大大阪として繁栄。中之島公園や御堂筋など近代都市としての骨格が形成され、物資輸送や観光のための動力舟運が発達した。      |
| 現代    | 戦後モータリゼーションの進展により、多くの堀川や水路が埋め立てられ道路や高速道路になり、水都としての面影が大きく損なわれた。 |



大坂名所一覧（江戸後期）



近世の大阪都心部の下水道網



桶舟

江戸・河内両河の下屋をとりため、桶に入れて運送しました。往時に舟物・舟運を積み重ね、水路に下屋を積み重ねました。

部切舟

下屋を入れるため、舟に仕切りをしていました。間舟ともいいます。堀川・堀の下屋が使用しました。

糞尿を運搬した船

## 大阪・淀川流域圏での水辺ネットワーク強化の動き

平成15年、府・市・経済界を中心に『水の都大阪再生構想（水の都大阪再生協議会）』『大阪 花と緑・光と水のまちづくり（花と緑・光と水懇話会）』が策定され、水都大阪再生の動きが本格的にスタートした。続いて平成17年『琵琶湖・淀川流域圏の再生計画』が策定されたことにより、淀川流域圏再生の動きも活発化しつつある。

その中で、『水の都大阪再生構想』では基本方針「水辺をネットワークし魅力を高めよう」が、『琵琶湖・淀川流域圏の再生計画（H17）』では戦略「水辺をつなぐ」「まちにせせらぎを導入する」が掲げられ、大阪・淀川流域圏で水辺のネットワークづくりの機運が高まっている。



『水の都大阪再生構想』より  
基本方針「水辺をネットワークし魅力を高めよう」



『琵琶湖・淀川流域圏の再生計画』より  
戦略：まちにせせらぎを導入する

## 環境に配慮したまちづくりへの転換

平成20年、新府知事・新市長のもと、大阪の将来像検討が進められている中で、『大阪府将来ビジョン（H21策定予定）』では将来像「水とみどり豊かな新エネルギー都市大阪」「みどりの風を感じる大都市オンリー1」が、『大阪市「元気な大阪」をめざす政策推進ビジョン（H21策定予定）』では重点的な取り組み「安全・快適な暮らし力アップ」で「海の御堂筋構想」「風の道」の展開が掲げられ、低炭素社会を目指す環境に配慮したまちづくりへ転換する動きがある。



『大阪市「元気な大阪」をめざす政策推進ビジョン』より  
「海の御堂筋構想」



『大阪府将来ビジョン』より  
「水とみどり豊かな新エネルギー都市大阪」

# 水の路づくり～「水の回廊」から「水網のまち」へ～

都市景観の軸となる水辺ネットワークの形成と  
環境に配慮した水都大阪の生活文化の再生